

どんな小さな仕事でも、 それが形になることが嬉しい

野田千加

企画

小さな頃からものづくりが好きだった野田さん。高校の家政科で初めて作った子供服を、知人の娘さんにプレゼントして喜んでもらったのが忘れられない思い出だそうです。その後、福岡の服飾専門学校に進学。在学中に応募した山口県開催のデニム・ファッションデザインコンテストを通じて、デニムを持つユニセクスの魅力を知ります。そして、同じ学校の先輩が就職していたことがきっかけでビッグジョンへ入社することとなりました。

入社以来13年間、レディースジーンズの企画を担当。入社5年目の頃、頼りにしていた先輩の独立、自身の東京支社への転勤が重なったことで、「自分がやらないといけない」という覚悟が決まりました。3年の東京転勤を経て岡山に戻ってからは、企画の仕事以外にも、試作品の製作や、販促グッズやパンフレットの製作、店舗ディスプレイのデザインなども担当しています。最近では、「児島」に来たことが分かる写真を撮りたいというお客様の声に応え、店舗内に飾る看板「KOJIMA」のデザインと製作を手掛けました。

「ものを作り上げることが好きなので、企画だけでなく、ものづくりを後押しすることであれば、広報や販促の仕事にもやりがいをもって取り組んでいます。会社も、自分の『こんなことやってみたい』という声に、どんどんやってみなさいと言ってくれるのでありがたいです。どんな小さな仕事でもクリエイティブな要素は必ずあって、自分がイメージしたものが実際に形になることに達成感を感じています。」



もっと生の声

Q & A

- 今まで挑戦を続けられた理由はなんですか？
元々はネガティブな性格で、「私がやっていいんだろうか。迷惑をかけたらどうしよう…。」と尻込みすることが多かったのですが、周囲の先輩たちが「自信を持っていいよ」といつも言ってくれることが大きかったですね。失敗も後々の成功に繋がることがわかってきて、それが次のチャレンジへの後押しとなりました。
- 思い出に残っているエピソードはありますか？
いつも、多くのお客様に会場いただいている「児島フェス#せんいさい」です。売り場スタッフで現場にいて、「試着室がない」というお客様の声に応えたいと思い、即席で段ボールの試着室を作ったことがありました。お客様にも喜んでいただき、売上にも繋がったことで会社からも認められて嬉しかったです。その後、このイベントでは試着室を常設する流れとなりました。
- 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。
今はいろんな情報が手に入りやすい反面、実際に経験することが少ないように感じています。実際に経験をすることで全く違う見え方や感じ方ができるし、失敗したとしても、後々それが自分の力にきつとなります。興味があつたらとりあえずやってみるということが大切だと思います。

